

粕谷和夫の観察日記より。成虫越冬のムラサキジミです。1月31日、東京あきる野市平井川の河原を歩いていると竹の葉の上で午後の陽にあたっているこの蝶に出会いました。この日は春のような陽気だったためか、この蝶は全身を陽に晒さず、半身は日影に身を置いていました。

# 紅葉台



# 新聞

第118号  
2024年  
2月24日  
発行人：関谷 孝

## 開かれた牧場で 持続可能な酪農を



2024年1月8日東京新聞朝刊の紙面に大きく掲載されていたのが、「磯沼ミルクファーム」でした。約70年前から酪農を営み、3代目となる磯沼杏さんとお茶の水女子大学大学院で「食や栄養に関する研究」をしている2人の学生の話でした。今年は食について年初めの新聞を出したこともあり、また地元の話でもあるので思わず引き込まれて記事を読みました。磯沼ファームは、よくテレビ等でも取り上げられている有名な都市型牧場です。存在は知っていましたが、どんな牧場なのか大変興味深い内容でしたので紹介します。

この牧場では3つの理念を大切にしています。1つは、「家畜福祉」牛たちには餌や水、行動の自由があり、命あるものとして尊重されている。ここの牧場は牛がつかなられてなく、自由に牛舎を歩いていた。2つ目は、「品種の多様性」現在、7種、約80頭の牛を飼育していることで酪農文化の豊かさを発信する。3つ目は「循環型酪農」地域の野菜くず等食品廃棄物を利用した飼料を作り、牛の糞尿を堆肥化し、地域の農家に提供販売するという循環を生み出している。確かに市民菜園の人がここの堆肥を使うと話していたことがありました。

また、だれもが酪農に触れられる開かれた牧場「オープンファーム」の取り組みをしています。2022年に敷地内にオープンしたレストラン併設の販売拠点や約30年前から牧場で搾乳した牛乳を原料に自社工房でヨーグルトを製造している。牧場見学に来て飲んだ方もいるのではないのでしょうか。プリンやケーキなどの自社加工品の開発・販売にも力を入れている。地元の**中西ファーム**の野菜、**パーゼルの**ケーキ等と提携して広い敷地にレストランが出来たことも記憶に新しいです。



このように「食から日本を考える」ニッポン フードシフト。それは、生産者、食品事業者と消費者がともに「食」を考え、行動しようという運動です。2021年にスタートしました。新聞は、「これからを担う若い世代が、真摯に食を考え、新鮮な発想をもって行動することが切に求められています。食を考えることは、社会を、そして未来を考えること。そんな課題を『新しい大人』の皆さんに問いかけて」と締めくくっています。今年の初めは、日本でも災害があり、命をつなぐためには食が大事であることをあらためて実感しました。学生の言葉の中に「食の文化的な面を知ること、心も豊かになり、真の豊かで健康的な食生活を送ることが出来るのではないか。生産現場を体験することも食文化を知る

ことに直結する。」と話していたことも共感します。皆さんも近くなので散歩がてら訪れてみるのもいいかもしれませんね。元気な牛たちが迎えてくれますよ。

(京王線山田駅から徒歩5分)

## 粕谷和夫の観察日記



埼玉県越谷市の元荒川の河原を散策。穏やかな流れの元荒川でカモ等の水鳥を期待したが、思ったより鳥は少なかった。そんな中で、カイツブリが潜水を繰り返し、餌を漁っていた。カイツブリは通常は魚を捕るが、この日、取ってきた獲物は魚ではありません。良く分かりませんがエビのように見えます。



ヒヨドリの集団吸水です。板橋区赤塚公園の水たまり場、日影のため写真の色がよく出ませんでした。水を口に含んで上向きになったところが1羽の指揮者に合わせてコーラスをしているように見えました。



黄色と黒のトラのような模様のトラツグミです。1月20日八王子、日野市内の8か所の緑地で冬鳥一斉カウントを行い、私が担当した宇津貫台緑地の雑木林で出会いました。トラツグミは、繁殖期に夜に「ヒョーヒョウ」と不気味な声で鳴くため、古くから得体のしれない「鶺鴒(ぬえ)」と呼ばれた鳥ですね。

♡ ネットで鳴き声を聴いてみてください。夜鳴く声はお化けが出てきそうなおどろおどろしい鳴き声でびっくりです。



1月25日、利根川の河原、常磐線取手駅近くの鉄橋の下流側です。天気は晴れていたが、立っていると吹き飛ばされそうな季節風が吹き荒れる日和でした。こんな強風にもタヒバリは動じないのか、芝生広場で餌を探していた。このタヒバリの表情からは強烈な季節風が吹き荒れている様子が感じられないのは不思議です。



あきる野市養沢地域の里山を歩く探鳥会で五柱(いつはしら)神社の前に差し掛かりました。神社の前に杉の巨樹の看板があり、樹齢約400年、幹回り約8メートルと表示されていました。堂々たる圧倒的な杉の巨木を拝み、パワーをもらいました。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。